

第3回大田区文化芸術推進協議会 議事要旨

1 開会

日時 令和7年5月1日 9時 30 分から 11 時 30 分まで

場所 大田区役所2階 201 会議室、202 会議室

委員出欠

出席(1)委員 10 名

(2)事務局 文化芸術推進課5名

欠席 委員2名

2 区が考える文化施策について

事務局から「区が考える文化施策」について説明、意見交換

(資料は別紙「文化権について」のとおり)

【各委員からの意見】

C 委員

・区の最上位計画(大田区基本構想)の柱に「文化」が入ったことは大きな意味を持つと思う。個別計画の施策は区民と考えていくとよいと思う。

D 委員

・SNS をより一層活用した方がよい。区の SNS をフォローすることで、何か得することがあれば見てもらえると思う。

E 委員

・「文化権」という考え方が大切だと思う場面として、多様性が育まれる場において、いまだに特定の人を排除するような発言の場を経験したので、共有させていただいた。
・普段文化芸術活動をしていない人へのアプローチは、もう少し工夫の余地があるのではないか。
・行政はもっと部局を越えた横のつながりが必要だと思う。
・イベントを行うにも適切な告知が大事だと思う。

F 委員

・それぞれの人の心の中にそれぞれの文化がある。豊かな人生を送るためには「文化」は必要。
・文化には効果があって、人のつながりや地域への親しみ、横のつながりを生むこと等がそ

うだと思う。だから行政が行政サービスとして(文化施策に)関わるのだと思う。生活に困窮している人、時間や情報がない人に対して、行政サービスとして文化にどう関わっていくか。

I 委員

・区の魅力を発信するアピールが足りないと思う。予算のつけ方も検討の余地があると思う。

J 委員

・情報は大田区の1つの資源だと思う。いろんな情報が区に集約されて、それを活用できるような情報のプラットフォーム化ができるとよい。

G 委員

・事業の情報を発信しても閲覧件数が伸びないなど、情報の伝え方は難しいと感じている。

K 委員

・情報発信の仕方は工夫の余地がある。

副会長

・娯楽として文化に親しんでいる人から文化にたどり着いていない人にターゲットを変えることは、大変なことであり区役所単体で取り組むのは難しい。区民の中に協力してくれるポテンシャルを持った仲間を見つけて取り組んでいくといい。プランの目指すところをこういう人たちと共有することが大事である。例えば、NPO 法人の窓口に行くと、区からの情報がきちんと提供されていて、区役所のどこの窓口に行けばよいかわかるようになっている等。

・いろんな窓口(場所)で区の施策が伝わるようになるといい。

会長

・行政側から正しく情報発信ができていないと思う。届けたい人に情報が届いていないのではないか。情報を届けたいと思うのであれば、どう届けるか考えていく必要がある。

・現行プランもそうだが、複数の部局をまたがった横のつながりが希薄だと思う。横のつながりを考えるべきである。

・娯楽として、文化芸術を楽しんでいる人たちもいるが、文化芸術が自分の表現で、文化がないと生きていけない人がいることを含めて、情報発信や今後のプランを考えていく必要がある。

3 次期大田区文化振興プランの体系案について

事務局から「次期大田区文化振興プランの体系案」について説明、意見交換

【各委員からの意見】

C 委員

- ・全体の構成はよいと思う。
- ・「文化資源」はすでに存在しているものであり、再発見・再認識したり活用したりするものなので、「(文化資源の)創造」という言葉に違和感を覚えた。
- ・「ウェルビーイング」は、受け手によって理解が異なる。ウェルビーイングで表したいことを別の言葉で表現するとよいのではないか。

D 委員

- ・「ウェルビーイング」は幸福感と表現してもいいのでは。

E 委員

- ・体系図について、まとまっていると思うが、わかりにくい。第三者にわかりやすい表現がよい。

F 委員

- ・横のつながりが大事。
- ・地域で活動している団体はたくさんあるが、区としてきちんと全体を把握できていないのではないか。
- ・今、歴史的資源を活用したまちづくりをする動きがあるが、地域の歴史も文化で、地域の財産だと思う。
- ・「文化芸術」という言葉は文化の範囲を狭くしていると思うので、「文化」と「芸術」としてはどうか。

I 委員

- ・「地域」という言葉は漠然としているので、使い方を再考すべきだと思う。「地域」は人の集まりなので、「地域」を「人」と置き換えても意味は通じるのではないか。

J 委員

- ・「歴史」、「他地域との交流」という言葉は大事だと思う。こういうキーワードを盛り込むと、住んでいる我々にとっても理解しやすい。

G 委員

- ・「ウェルビーイング」という言葉をどう捉えているか、プランの中で定義していく必要がある。

副会長

- ・プランを遂行する際、施策を実行することが目的ではない。めざす姿(ゴール)をしっかりと示すことが必要。
- ・「地域」という言葉が出てくるが、大田区全体を指しているのか特定のエリアを指すのかわかりにくい。多彩な地域の魅力を区のアイデンティティとするのか。

会長

- ・歴史的風致を生かしたまちづくりをしていくなど、区の歴史をもっと知ってもらうことを前面に出した方がいいのでは。大田区の歴史は区の魅力となるのではないか。
- ・「資源」は創造するものではなく、活用していくものである。
- ・施策の体系図の見せ方は、工夫が必要だと思う。

4 その他

会長

- ・現行プランをどう評価しているか次回の協議会の際に示してほしい。
- ・区の公共施設マネジメント計画(大田区公共施設等総合管理計画)において、文化施設がどう位置付けられているのか示してほしい。

5 事務局からの事務連絡

次回の開催日時について

6 閉会